

令和2年度第3回東員町総合教育会議 議事録

1 開 会 令和2年5月13日 午後2時30分

2 閉 会 令和2年5月13日 午後3時50分

3 場 所 東員町総合文化センター 第一研修室

4 出席者	東員町長	水谷 俊郎
	教育長	岡野 譲治
	教育長職務代理者	向山 節雄
	教育委員	三貫納 幸
	教育委員	木村 陽一
	教育委員	松宮 あけみ
	政策課長	丸山 太
	教育委員会事務局長	西村 隆嘉
	教育総務課長	佐藤 光広
	学校教育課長	日置 貴久
	学校教育課副課長	加藤 研二
	教育総務課長補佐	南部 博輝
	教育総務課主幹	吉田 尚生
	東員第二中学校長	井上 征樹
	稲部小学校長	三和 幸弘
	神田幼稚園・東員保育園長	小林 真奈美

5 会議事項 別紙のとおり

(別紙) 会議事項

1 開会の辞

(教育委員会事務局長)

令和2年度第3回東員町総合教育会議を開催させていただきます。町長から挨拶をいただきます。

2 町長挨拶

(町長)

委員の皆さまのご意見をお伺いして、疑問点があれば質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

3 事項

(1) 小中学校再開に向けての対応について

(教育委員会事務局長)

教育長から、再開に向けての大筋の考え方を説明させていただきます。

(教育長)

5月14日に緊急事態宣言が解除される予定である。新型コロナウイルスと共存する時期にきました。5月18日から学校休業を解除して再開する方向で進めていきたい。方法としては、分散登校から始めていく。詳しくは、担当から説明させていただきます。

(学校教育課副課長)

小中学校長への通知(案)について、説明させていただきます。

小中学校の臨時休業については、5月31日まで延長しましたが、国から5月1日に「新型コロナウイルス感染症対策の現状を踏まえた学校教育活動に関する提言」が出され、学校における感染及びその拡大のリスクを可能な限り低減しつつ段階的に実施可能な教育活動を開始し、その評価をしながら再開に向けて取組を進めていくという考えが重要であると記されております。

さらに5月14日には、三重県に対する国の緊急事態宣言が解除される見込みとなっていることから、町内や近隣市町で感染経路不明な感染者が出ていない場合は、臨時休業措置を5月17日までとし、5月18日から5月29日までの2週間、分散登校を実施したいと考えております。小学校は午前中の登校で、通学班、地区等で2グループへ分け1日置きに登校とします。登校しないグループは、家庭学習を行い、中学校は午前と午後に分けて毎日登校することとします。

小学校については、2日に1回の「家庭学習」を自宅待機扱いとして「出停」とし、小中学校とも風邪等により欠席する場合も「出停」とします。

また、分散登校に伴い、児童が自宅で一人になる場合が生じることから、5月29日まで緊急受け入れを継続します。

今後のスケジュールは、5月13日（水）に保護者へ周知し、18日（月）から臨時休業解除、分散登校開始。22日（金）の校長会役員会で状況を検証し、25日（月）に定例校長会を開催し、6月1日（月）から給食も含めて学校再開となります。

（学校教育課長）

小中学校の対応に準拠し、幼稚園・保育園も登園を再開します。幼稚園は、小学校に合わせて分散登園で1日置きの前中のみ、保育園は通常登園となります。給食については、幼稚園は実施なし。保育園の以上児は弁当持参、未満児は自園給食となります。各種感染症予防対策を実施して、登園を再開します。

（教育委員会事務局長）

先生方から現場の考えを聞かせてください。

（東員第二中学校長）

学校再開において、命が一番重要であることは誰もが考えていますが、専門家の話を聞いても、まだまだ目途が立たない状況である。学校再開は、保護者も不安、心配である。現状、感染の心配はあるものの、新型コロナウイルスと闘うのではなく、共存していかなければならない。感染者は、18日間ゼロが続いている。いつかは再開を判断する時期が来るので、目途を立てていく必要がある。

（稲部小学校長）

学校を再開したときに、4、5月と授業を受けていないので、いきなりの通常授業は難しい。子どもたちの心のケアと生活習慣を取り戻し、担任との共感を作っていかなければならない。特に小学校1年生は、1週間しか学校に来ていない。幼稚園・保育園で身に付けた力も失いつつある。6月1日の再開を考えたときに、生活習慣を取り戻し、新型コロナウイルスとどう対応していくのかを準備していく。共存していかなければならない時期が来ている。

(神田幼稚園・東員保育園長)

神田幼稚園・東員保育園は、園児数が約300名で約210名が保育園児である。分散しても1クラス25～26人になる。狭い空間で距離感を保つのは難しい。3密の不安がある。子どもだけでなく、保護者の不安やストレスが出てきている。小中学校に合わせて園も同じように進んでいくのがよい。

(教育委員会事務局長)

委員の皆さまの考えを聞かせてください。

(委 員)

社会情勢に影響されるのは仕方ないが、5月31日まで臨時休業と決めたのに再開するのは不安がある。しかし、学校再開も考えていかなければならないので、来週から分散登校で慣らして6月1日に再開したほうがよい。分散登校の案において、小中学校の違いの理由をお聞きしたい。

(学校教育課副課長)

臨時の校長会において意見を聞き、中学校は毎日登校することで授業数を確保するとともに、義務教育の最終段階の生徒もあり、国も小1、小6、中3を中心に分散登校を開始するよう提言もあり、毎日登校することにより、生活リズム、学習習慣を取り戻していく。小学校は午後登校をしたことがなく、午前登校を繰り返して慣らしていくこととしました。

(委 員)

分散登校の案は分かりやすく作成されている。報道等では概ね落ち着いてきている状況である。再開に向けては安全確保が一番の心配であるが、この案で保護者も納得していただけたと思う。新型コロナウイルス感染症に関する学習指導をしながら、ウイルスと共存していく段階になりつつある。この2週間で日常生活のリズムを整え、1週間ごとの様子を判断しながら、6月1日の再開を迎えて欲しい。

(委 員)

学校再開については、一斉の再開は難しいと思っていたので分散登校で段階的に再開するのはよい。この2週間で心のケア・生活リズムを整え、6月1日から通常に戻れるよう努力して欲しい。

(委 員)

通常の学校の生活リズムに戻るのには、タイミングが大事である。国・県、

専門家の指標が重要となってくる。足並みをそろえることで保護者、子ども、教職員も納得して進められる。小中学生は、新型コロナウイルスとの付き合い方を学んでいく期間として重要だと思うが、幼稚園・保育園は過密を発生させてしまう。この点はいかがでしょうか。

（神田幼稚園・東員保育園長）

2歳児は24名いる。保育室がいっぱいにならないように、外で遊ぶ時間と内で遊ぶ時間をずらして対応している。これは担任が4人いるのでできるが、以上児は担任が1人なので難しい。どうしても密は避けられない。しかし、保育園は、働いている保護者を支援していかなければならない。不安は解消しないが、再開していかなければならない。

（教育委員会事務局長）

町長から意見をいただきます。

（町 長）

私の意見で皆さんと違うのは、学校・園を再開しても新型コロナウイルスに感染する可能性は極めて低いということです。県内の感染者45人の9割以上は県外由来のものであり、冷静にデータを分析したら、感染の確率はほとんどない。完全にゼロになるのを待っていたら、永久に再開できない。判断はもっと早くてもよかったが、このタイミングでよいと思う。しかし1つ気になるのは、小学生が1日置きの登校という点である。6月までの慣らし登校ということなら、リズムを作るために毎日午前中の登校でよいのではないか。小学校の1日置きの再開では困る保護者が出てくる。学校休業は証明が出て休めるが、再開したら証明がでない。子どもたちのリズムを戻すのであれば、1日置きではなく、毎日登校したほうがよい。

（委 員）

町長の意見には概ね賛成である。しかし、子どもたち同士の感染はないが、親からの感染はあるのではないか。

（町 長）

これまでも県外（名古屋）に通勤している親がいても感染者は出ていない。

（学校教育課副課長）

小学校の再開にあたっては、いくつか分散登校の案を校長会へ出して検討してきました。中学校と同じように午前、午後で毎日登校という案もあった

が、小学生は午後の登校を経験していないので、心配という声がありました。しかし、午前に全員登校となると密を避ける環境を確保できない。いずれ6月1日からは毎日の登校になるが、この2週間で子どもたちが大声を出さずに相手との距離を保ちながら生活していくことを身に付けるための期間として、校長会で協議した結果、1日置きに登校となりました。

(町 長)

午前中だけでも全員登校として、慣らしていったほうがよい。

(学校教育課副課長)

第2週目からは全員で午前中登校するという段階的な案もありましたが、まずは、スタートとして1日置きの前登校とさせていただきたい。

(神田幼稚園・東員保育園長)

現在、保育支援員が学校休業で休んでいる。保育園が再開すると支援員が足りない。分散登校が1日置きで始まると小学生の子どもがいる支援員も休むことになるので、支援員が足りない状況が予想される。

(東員第二中学校長)

現段階では、再開しても感染者は出ないと思われるが、何かあった際には保護者から必ず責任を問われる。少しでも不安的要素を減らし、この2週間で慣らしながら6月1日を迎えるほうが、保護者も納得される。

(稲部小学校長)

小学校としては、段階的に2週目から全員登校したほうが担任としては学級が早く始まるし、指導ができるのでよいが、今現在は20名を目途に密を作らないという基準が安心になっているので、少ない人数から指導して次の段階に持っていくことで校長会が一致した。保護者への周知や準備から18日からの全員登校は難しい。保護者も教職員も認識の転換をし、共存していくための2週間で、安心も含めて分散登校を確実にやっていくことを校長会で共有している。

(町 長)

働く保護者のことも考えなければならない。子どもも1日置きではリズムが作れないのではないかな。

(委 員)

子どもたちにしても家庭にしても1日置きではリズムが作りにくい。1週目は1日置きで登校し、2週目からは全員登校にしたらどうか。

(教育長)

学校が再開しても密閉、密集はなんとかできても、密接を避けるのは難しい。2週目からは全員登校する方向で進める。小学校は3か月休んでいるので丁寧な指導が必要である。

(東員第二中学校長)

現場は子どもたちを第一に考えているが、世間では分散登校の話がでてい
るなかで、保護者の不安が不満にならないようにしなければならない。

(町 長)

小学生、特に低学年は毎日のリズムが大事である。この2週間を大事にして、1週目は分散登校、2週目からは毎日の登校として、段階的に行っていくことを保護者へアナウンスしていく。

(学校教育課副課長)

それでは、第1週目は小学校は1日置き、中学校は午前、午後の登校。第2週目は5月26日から小中学校とも午前中の全員登校として進めます。

(学校教育課長)

この後、本日決定したことを新型コロナウイルス感染症対策本部会議へ報告し、マチコミメールで保護者へ周知を図ります。その詳細はホームページへ掲載し、行政メールでも配信します。

4 閉会

(教育委員会事務局長)

これを持ちまして、令和2年度第3回東員町総合教育会議を閉会と致します。長時間、議論をいただき、ありがとうございました。